

## 6. ソメイヨシノをサクラてんぐ巣病から守ろう

サクラてんぐ巣病はタフリナ菌というカビの一種の病原菌で発生する病気で、罹った枝は多数の小枝を発生しながら大きなかたまり（写真①）となり、枝は花が咲かず、健全な部分が開花している時に小さな緑の葉が開いてくるので、花時の見映えが非常に悪くなります（写真②）。

この病気の枝について小さな病葉の裏側に病原菌の胞子がつくられ、花が散り終わった頃から飛散し、やがては枝全体に伝染します。（写真③）しかも、罹った桜を放置しておくと伝染源となって他の桜に広がっていきます。病気に罹った枝は数年間で枯れて、その部分から腐朽菌が侵入し、枝や幹に腐朽が進むため桜の樹は著しく衰弱していき、やがては枯れてしまいます。（写真④）



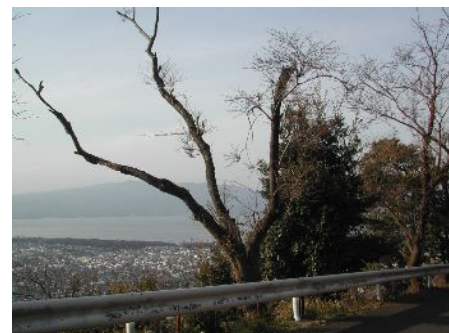
①落葉期の状態、小枝が多く出て玉状になっているのが分かる。



②開花時期のてんぐ巣病、病気に罹った玉状の枝によって、桜の美観が損なわれる。



③枝全体に伝染した落葉期の桜の様子。



④病気の桜は著しく衰弱し、やがて枯死してしまいます。

### 1) 発生しやすい場所

風通しと日当たりの悪い場所・湿度の高い場所・密植している場所

### 2) 防除方法

現時点では薬剤での防除方法が確立されていないため、病巣部を切除するしか有効な対策はありません。作業は落葉期間中に行います。1度の除去作業では取り残しなどがあるため、最低2～3年間は継続して除去作業を行うことが重要です。

### 3) 予防方法

桜の中でもソメイヨシノは感染しやすい品種なので、周辺にこの病気にかかった桜がある場合にはこの品種を避けることや、病巣部の切除作業が出来ない場所には植えないことも一つの方法です。